

66・変更をチャンスに変える

お泊まり保育計画変更から学んだこと

2026年9月 原町幼稚園園長 鶴谷主一（静岡県沼津市）

毎回、幼稚園で行われている活動と活動のねらいを中心にお伝えしている私のレポートですが、今回は珍しくメッセージ性の強い内容になります。

☆今回一番のメッセージは、

計画変更を「失敗」と捉えるのか、「新しい可能性」と捉えるかを学んだ体験レポートです。保育の世界でも、対人援助の世界でも、予定通りいかないことは日常に起こることで、大きな行事を変更するときは、物理的、精神的に大きなエネルギーが必要です。そんなときに、実行する決断者（施設の長だけでなく職員みんな）としてなにをマインドセットしておけば良いか、今回の経験が示唆してくれました。

《三度の計画!?!》

第1段階 「これでいける!」と思っていた

もともとは朝霧高原での一泊二日。65号で紹介していますが、長年続けてきた定番コースがあり、マスのつかみ取り

川遊び

朝霧野外活動センターで宿泊

キャンプファイヤー

酪農体験

という、いわば「完成されたプログラム」がありました。

ところが今年は、牧場の予約が取れず、さらにクマの目撃情報。

安全を最優先に考え、朝霧での活動を一部変更することになりました。

長い歴史が中断される悔しい思いと「せっかく準備してきたのに……」という「マイナス」が発生します。



第2段階 「代替案」を探す

気を取り直して最初に考えたのは、

朝霧でできなくなったものを、どこか別の場所で代わりにできないか？

という発想。

そこでレジャー施設「まかいの牧場」を下見。代替場所としてはなんとか納得できることから「これならお泊まり保育を成立させられる」と考えます。

二度目の計画案を作成。そして6/24には保護者への第1回目の説明会を実施します。

そこでは、今後「熊」情報が報道されたら即刻中止、代替案は考えていない。と告知していました。

ここまでは、「失ったものを、別のもので補う」

という発想です。

ところが、ここからもう一段階、状況が変わり考え方が変わります。

第3段階 「代わり」を探すのをやめる

説明会の5日後、お泊まり保育本番の約10日前に熊の目撃情報が報道されました。その日のうちに園舎で宿泊する目処、代替案を確認し、翌日速報メールで「**お泊まり保育は園で実施する**」ことを伝え、朝霧野外活動センター等の予約をキャンセルするなど対外的な手続きを済ませました。

3回目の保護者への説明資料には、「朝霧高原で行ってきた活動を代替するのは不可能」と明記しました。

そして、私たち保育者は、

「代替案では無く、園でのお泊まり保育ならばどんなことができるか」

「ふだんできない、子どもたちの頭の中のイメージを具現化できるなにか！」

という視点に切り替えてきました。

つまり、

Before 「できなくなったことを、どうやって別の形で実現するか」

から、

After 「条件が変わったのなら、この条件だからこそ何ができるか」へ視点を切り替えることができたのです。「熊のおかげ」と言うと少し語弊がありますが、結果として、私たちが計画そのものを見直すきっかけになったことは確かです。

そして、活動の性格そのものが変わった

朝霧高原でのお泊まり保育は、豊かな自然環境そのものが大きな教材でした。

一方、園泊に変更したことで、

「園だからできること」を考える必要が生まれました。

そこで生まれたのが、「富士山とすきなもの」オブジェづくりです。

子どもたちが事前に構想し、友だちと相談しながら、大きなオブジェをつくる。本番まで1週間という日程があったことも幸運でした。子どもたちのやりたいことを聞き出し、話し合い、アイデアを出して、それをできる限り実現させてやろうという姿勢で取り組むことができたからです。カインズホームで素材になるものも買い込めました。

「朝霧高原に行けなくなったから、仕方なく工作をした」のではなくむしろ「園に泊まるなら、園でしかできないことをやろう」に変換された。

考察：「変更」が子どもの主体性を生み出した

ここから、今回のことを考察してみます。

当初の計画では、大人が考えた「子どもたちに体験してほしいこと」を、子どもたちと実施するという色合いが強かった。。もちろん、それ自体は悪いことではありませんし、普段経験することができないことから得る成長も期待できました。

しかし、計画が大きく崩れたことで、

「じゃあ、どうする？」という問いが生まれました。

そしてその問いによって、子どもたちが考える、相談する、アイデアを出す、友だちと協力する、自分たちでつくる、「こうしたい」を実現するという活動が生まれた。

つまり、

「大人が用意した体験」から「子どもがつくる体験」へ、活動の性格が変わったのです。

いままでのお泊まり保育を思い出すと、牛の乳搾りがこわくて泣いている子どもを説得して、なんとかやらせて「山を乗り越えさせられた！」と保育者側はある意味達成感を得ていましたが、それが果たして本当にそうなのか？疑問はいままでもあったけど、そちらに目はあまり向けていなかったわけです。

「できた！」という結果を、大人は「成長」と評価するのですが、それは本当に子ども自身が「やりたい」と思って得た経験だったのだろうか。という問いは常に考えなくてはならないことです。

今回のお泊まり保育では「やらせる」よりも「どうしたい？」と聞く時間が増えました。

今回、一番ガッカリしていたのは、園児を通わせてくれている元職員の親たちでした。活動の詳細を知っているだけに「あの経験をさせられないんだ！」と彼らの批判はいちばん大きかったです。でも、お泊まり保育をよく知らない親は「熊のことは気になっていたので安心した」という声も多かった。子どもたちは、知らないところに泊まりに行くというプレッシャーから開放され、「普段通っている幼稚園に泊まれる」という安心感からか、期待値がぐーんと上がったのは意外でした。

「変更を嫌う心」を考える

ここでは少し踏み込んで、
なぜ私たちは変更を嫌がるのか？を考えます。

理由として、

これまで準備してきたものが無駄になる

努力が否定されたように感じる

周囲への説明や段取りが大変

責任を問われるのが怖い

新しいことを考えるのが面倒

失敗したくない

「最初の計画が悪かった」と思われたくない

などがあります。

だから、「変更＝マイナス」と感じやすい。

しかし実際には、環境が変わったのに、最初の計画に固執するほうが危険な場合もあるわけです。

当初は大人が、「子どもたちががっかりするのではないか」と心配していた。

実際、保護者向け資料にも、朝霧高原に向けて準備してきたため、子どもたちのモチベーション低下を心配していると書きました。ところが子どもたちは気持ちを切り替え、園で泊まることを楽しみにしてくれた。

ここから、

大人は「計画が変わったら子どもはかわいそう」と思っていたのですが、子どもたちは思っていた以上に柔軟だった。「朝霧に行けない」ことより、「みんなでお泊まりする」ことを楽しみにしていた。という発見があったのです。

「変更に弱かったのは、子どもではなく、

大人のほうだったのかもしれない。」

大切なのは「目的」と「手段」を分けること

今回変えなかったのは、お泊まり保育の「ねらい」です。

自分のことを自分でする

自信を持つ

友だちと協力する

非日常を楽しむ

日常ではできない経験をする、という部分でした。

変わってよいものは、その「ねらい」を実現するための手段です。

ここを分けて考える。

目的は守る。方法は変えても良い。

これは今後の保育活動でも重要な考え方になると思います。

今回の実践から見えた3つのポイント

今回の経験を整理して、我々スタッフに必要な力を考えました。

① 捨てる力

「せっかく準備したから」と、古い計画にしがみつかない。

必要なら、「これは一度捨てよう」と判断する。

② つくり直す力

条件が変わったら、「じゃあ何ができる？」とゼロから考え直す。

単なる代替ではなく、新しい価値をつくる。

③ 意味づける力

そして一番大切なのが、「この変更には、どんな意味があるだろう？」と考えること。

今回なら、「朝霧に行けなくなった」という出来事を、

「園でしかできないお泊まり保育をつくる機会になった」と意味づけ直した。

この「意味づけ」は、今後の活動設定においても必要な力になるのではないか。

さいごに、幸運だったこと

○猛暑の中、牧場へ行って炎天下の中で歩き回ることを危惧しておりました。その点、
「特別なおたのしみ計画」で水族館を選んだため館内での活動は涼しい中でできました。
屋外スタジアムでのアシカショーは汗だくでした。これからの夏の屋外活動は気温
を考慮しなければなりません。

○保育園のお昼寝用の簡易ベッドを借りて使うこと、給食室の協力を得られたことは、施設として幸運でした。

○一日の汗を流す、ナイトプールは午前中から水を張っておくことで、冷たすぎずちょうど良い湯加減？で楽しむことができました。

○2日目にお迎えに来られた保護者たちは「子どもたちが構成した朝霧高原」で、我が子と一緒に“模擬お金”を使って、子どもたちが考えたお店で楽しんでから帰りました。
保護者も一様に驚きと満足の顔で、たくさん写真を撮っておりました。

○いつも同じ活動をしていた保育園と幼稚園は、1日目の夜～2日目はそれぞれに、考えた活動を実施しました。（一緒じゃなくてもいい、ということが柔軟にできました）

《 資 料 》

最終的に園泊のお泊まり保育保護者向け資料（1 ページ）

お泊まり保育説明資料2026《園泊版・幼稚園》

日程：7/10(金)～11(土) 大きな体験しよう！

6月30日にメールで「熊目撃報道→朝霧での活動は中止」とのお知らせから3日経ってしまいました
が、園でのお泊まり保育の計画が整いましたのでお知らせいたします。

これまでの経緯を説明します。

まず熊報道があったら即中止という前提でしたので、29日の目撃報道があった時点で中止は決定でした。もし来週報道が出ていたら、準備期間もなかったので園でのお泊まりは実施できなかったと考えます。タイミングとしてはギリギリでした。2学期以降に振替の日程が取れるとは限らないため、なんとかこの日程でできないか検討を始めました。

まず子どもたちの活動を考えて、園で泊まるにしても「何かしら非日常のお楽しみを体験させたい！」と考え、バスに乗って出かけられる場所の選定を行いました。まかいの牧場は安全だとは思いますが、99%安全としても富士宮市内ですので不安は残ります。その1%の不安を解消する術は無いのが熊の厄介なところです。熊スプレーも準備していましたが有効かどうか、上手く使えるかすら定かではありません。

天気予報では雨の確率が高かったので、もう変更はゴメンだという気持ちもあって、雨でも対応できることも考慮し、急ぎょ三津シーパラダイスを見学してきていたのですが、ちょうど加藤学園さんが遠足にきていました。ざっと館内を見回って魚介類の観察もできるし簡易的なアスレチックで遊ぶこともできること、その日の予約は原町だけということで施設を問題なく使えるということで三津シーパラダイスを選択しました。イルカのショーも魅力的なところです。園にお泊まりする日のはじまりとして、子どもたちの共通の体験と話題を提供してくれると思います。

30日はここまで決まったところで、いち早く保護者の皆さんにお知らせしたほうが良いという判断で、とりあえず「予定の日程で実施します！詳細は後日」ということでメールを流しました。

その後、どんな活動をしていくか検討をしてきました。朝霧高原で行ってきた活動を代替するのは不可能なので、代替案では無く、園でのお泊まり保育ならばどんなことができるか、という視点で子どもたちの活動を再計画しました。（メールでお知らせした内容と若干違っていきますので活動のタイムスケジュールをご覧ください。）

朝霧高原での準備を進めていただけに子どもたちのモチベーションが下がってしまうことを心配していました…。幸いなことに、子どもたちは気持ちを切り替えて園で泊まることを楽しみにしてくれているようですので、私たちもその気持ちに応えるべく「お泊まり+α」で、子どもたちの思い出に残るお泊まり保育、そして成長の機会とさせて頂きたいと考えます。ご理解をよろしくお願い致します。

2026年7月3日（金）原町幼稚園園長 鶴谷主一 原町保育園園長 鶴谷由美子

※ねらいも若干変更しました

◆お泊まり保育の目標&ねらい

1. 「自分のことは、じぶんでやる」が基本。
「自分にもこんなことができた！」という自信を持とう。
2. 友だちと協力することの楽しさを体験しよう。
3. 海の生きものを観察し、興味を持とう。
4. 園に泊まるというトクベツ感を楽しむ。
5. 日常ではできない活動に取り組む。

幼稚園：富士山とすきなもののオブジェ作り（現在進行中）
保育園：三島の柿田川公園に園外保育



★活動タイムスケジュール

1日目の活動		2日目の活動	
12:45	12:00~12:30までに登園 ★記録カードを担任にお渡し下さい。 園庭集合	6:00	起床→洗面→着替え →布団片づけ、朝の体操 散歩（雨天時はお部屋で体操）
13:00	バス乗車→出発 三津シーパラダイス到着	7:20	部屋に戻る→手洗い、トイレ等
14:00~14:40	幼稚園/キッズコーナー、保育園/水族館	8:00	サンカフェにて朝食 サンドイッチ作り/エプロンバンダナ 「いただきます」
14:40~15:20	幼稚園/水族館、保育園/キッズコーナー	9:00	「ごちそうさま」→片付け 食後は幼保別々のプログラムになります 幼稚園：合同製作続き 片付け→荷物整理、お帰り準備 園長先生からのお話
15:30	イルカショー→出発→園着	11:00	お迎え わくわくホールにて製作物披露 幼稚園お帰り11:30までに駐車場をあけてください
17:00	夕食準備（カレーライス+サラダ）		
18:30	ナイトプール 晴れ：保育園屋上プール 雨天：幼/うさぎテラス 保/乳児組ベランダ ※お風呂代わりも兼ねているのでぬるま水 ※ドライヤー使用で髪を乾かす		
19:30	キャンプファイヤー 幼/New合同制作・「富士山とすきなもの」 富士山と町（すきなものなんでも）をテーマにみんなでわくわくH!いっぱいにおブジェを作り上げます。事前にみんなで構想したオブジェを友だちと協力して2日間かけて製作。 保/New園内探検 普段は入れない夜の保育園を探検！	8:45	保育園：柿田川公園に園外保育 ※雨天の場合：保育園でおたのしみ
		12:45	帰園後保育園で昼食 園長先生からのお話
20:30	就寝準備（はみがき、検温、着替え、トイレ）園貸出の敷き布団orベット。クラスごと就寝 つき/つき組の部屋（落合、小川） ほし/ゆり組の部屋（山田、鈴木） フリー真野、伊藤	14:00	お迎え
21:00	にじ/うさぎの部屋（藤田、石村、杉山） 消灯・就寝		

◆食事メニュー

- 夕食：カレー、サラダ、デザート、ヤクルト
 - 朝食：自分で手作りサンドイッチ（レタス・トマト・チーズ・ハム・ジャム）、牛乳
- ※夕食朝食/アレルギー対応はしていません



園庭でのキャンプファイヤー



「幼稚園の現場から」ラインナップ

- | | |
|-----------------------------------|--|
| 1号 エピソード (2010.06) | 35号 働き方改革って難しい (2018.12) |
| 2号 園児募集の時期 (2010.10) | 36号 満3歳児保育について (2019.03) |
| 3号 幼保一体化 (2010.12) | 37号 満3歳児保育・その2 (2019.06) |
| 4号 障害児の入園について (2011.03) | 38号 プールができなくなる！？ (2019.09) |
| 5号 幼稚園の求活 (2011.06) | 39号 跳び箱 (2019.12) |
| 6号 幼稚園の夏休み (2011.09) | 40号 幼稚園にある便利な道具〈紙を切る〉 (2020.03) |
| 7号 怪我の対応 (2011.12) | 41号 コロナ休園 (2020.06) |
| 8号 どうする保護者会？ (2012.03) | 42号 コロナ休園から再開へ (2020.09) |
| 9号 おやこんぼ (2012.06) | 43号 ティーチャーチェンジ (2020.12) |
| 10号 これは、いじめ？ (2012.09) | 44号 除菌あれこれやってみた (2021.03) |
| 11号 イブニング保育 (2012.12) | 45号 マスクと表情 (2021.06) |
| 12号 ことばのカリキュラム (2013.03) | 46号 感染予防と情報発信 (2021.09) |
| 13号 日除けの作り方 (2013.06) | 47号 親子ソーラン節 (2021.12) |
| 14号 避難訓練 (2013.09) | 48号 親子コンサート (2022.03) |
| 15号 子ども子育て支援新制度を考える | 49号 うんちでたー！ (2022.06) |
| 16号 教育実習について (2014.03) | 50号 子どもが育つ園庭・その1 木登りとブランコ (2022.09) |
| 17号 自由参観 (2014.06) | 51号 子どもが育つ園庭・その2 砂場 (2022.12) |
| 18号 保護者アナログゲーム大会 (2014.09) | 52号 子どもが育つ園庭・その3 ストライダーと Tonka (2023.03) |
| 19号 こんな誕生会はいかが？ (2014.12) | 53号 リスクと安全・園庭編 (2023.06) |
| 20号 ITと幼児教育 (2015.03) | 54号 夏の音楽会・動画 (2023.09) |
| 21号 楽しく運動能力アップ (2015.06) | 55号 クリスマス劇・動画 (2023.12) |
| 22号 〔休載〕 | 56号 こいのぼり製作 (2024.03) |
| 23号 大量に焼き芋を焼く (2015.12) | 57号 この頃、気になること (2024.06) |
| 24号 お話あそび会その1 (発表会の意味) 2016.03 | 58号 お話あそび会動画解説《年少編》 (2024.09) |
| 25号 お話あそび会その2 (取り組み実践) 2016.06 | 59号 お話あそび会動画解説《年中編》 (2024.12) |
| 26号 お話あそび会その3 (保護者へ伝える) 2016.09 | 60号 お話あそび会動画紹介《年長編》 (2025.03) |
| 27号 おもちゃのかえっこ (2016.12) | 61号 マルシェを開催しませんか (2025.06) |
| 28号 月刊園便り「はらっば」 (2017.03) | 62号 夏の暑さ対策！日除け改良版 (2025.09) |
| 29号 石ころギャラリー (2017.06) | 63号 運動会雨天延期に直面して (2025.12) |
| 30号 幼稚園の音楽教育 (その1・発表会) 2017.09 | 64号 年長組さいごの参観会 (2026.03) |
| 31号 幼稚園の音楽教育 (その2・こどものうた) 2017.12 | 65号 年長組お泊まり保育 (2026.06) |
| 32号 幼稚園の音楽教育 (その3・コード奏法) 2018.03 | 66号 変更をチャンスに変える (2026.09) |
| 33号 〔休載〕 | |
| 34号 働き方改革・一つの指針 (2018.09) | |

▶気になる記事・ご感想質問等ありましたら気軽に連絡ください。✉ office@haramachi-ki.ed.jp



こもれびのながのおはなし

はらまち
HARAMACHI Kindergarten
est.1957